

## 試験学習の取り組み方 ～ 「覚えること」と「思い出すこと」 ～

福祉資格試験は、計算問題のように問題文から答えを導き出すという感じの問題が少なく、事例問題についても、その部分の知識さえあれば解けてしまうものが少なくありません。そのため、学習で必要になることは「覚えること(=暗記)」です。つまり、福祉資格試験は、法律、疾患、相談援助技術といった内容をまるまる暗記できてしまえば、難なく合格できてしまうのです。暗記が得意だという受験生は、ひたすら暗記作業に取り組むのが最良な方法なのかもしれません。しかし、暗記が苦手だという受験生は、どうすればいいのか。。。「覚えること(=暗記)」が苦手ならば「思い出すこと」に力を入れてみてはいかがでしょうか。

「覚えること」と「思い出すこと」はとても似ているようで、全く異なります。なかには「覚えたから、思い出せるのでは？」と疑問に感じる方もいるかと思いますが、確かに覚えていないと思い出すこともできないといえますが、ここでポイントになるのは「覚えること」への力の注ぎ方です。みなさんも過去の出来事を思い出す機会があると思いますが、その思い出した出来事の時(当時)は、「将来的にこの出来事を思い出すから覚えておこう」と思っていることは少ないでしょう。つまり、特に覚える気がなくても、そのことを思い出すことができますし、ある一時点を思い出すことによって、その前後の内容や、関連する内容を同時に思い出すことも可能です。

この「思い出すこと」に重点を置いた学習をすることで、人によっては、思いがけないほどの効果が得られる場合があります。学習の仕方は、テキストを読んで覚える、ノートまとめをして覚えるといったご自身の好きな方法で良いと思います。しかし、過去問などの練習問題を解く際は、「思い出す」作業を行いながら解答していきましょう。この時、まずは「いつ勉強したか」「テキストのどこらへんに記載してあったか」などといった関連情報から思い出していき、徐々に正誤判断が必要な部分に近づいていきましょう。仮に正誤判断の部分まで思い出せなくても、思い出せた関連情報から推察することができます。さらに、一切勉強していなかった内容が出題された際も、変に「なんだっけ？」と悩むことなく、「これは勉強していない！」と迅速に判断できれば、他の選択肢から正解を導くことや、諦めて勘に頼ることといった適切な行動に移すことも可能になります。

実際例で示すと以下のような感じですが、選択肢に「介護保険の保険者は都道府県である。」とあった場合、瞬時に「市町村が保険者だから×」とでてこなかったら、まず「いつ勉強したか」「どのテキストのどの辺に記載されていたか」といった点を思い出してみましょう。

- ①あのテキストの前半部分に記載されていたなあ  
↓
- ②そうだテキストの『介護保険の特性』の章に書いてあったけど、保険者はどこだっけ？  
↓
- ③あれ？『介護保険の特性』の章の次って『国、都道府県、保険者の役割』だったな  
↓
- ④ということは市町村が正解？少なくとも都道府県は×だな

思い出し方の一例(成功例)はこんな感じですが、難しく感じそうですが、内容を覚えることに悩んだら、その内容を覚えた時期・時間、場所、使用したテキスト、テキストの記載箇所などの関連情報を思い出すことで、正解にたどり着くこともできるという方法もある！と頭の片隅に入れておいて頂ければ幸いです。

福祉試験対策工房&ぼぼ屋は、FacebookやInstagramも開設しています。

 @fukusitaisaku\_boboya

 fukusitaisaku\_boboya

★「いいね」「フォロー」大歓迎です！是非ご覧になってください★

